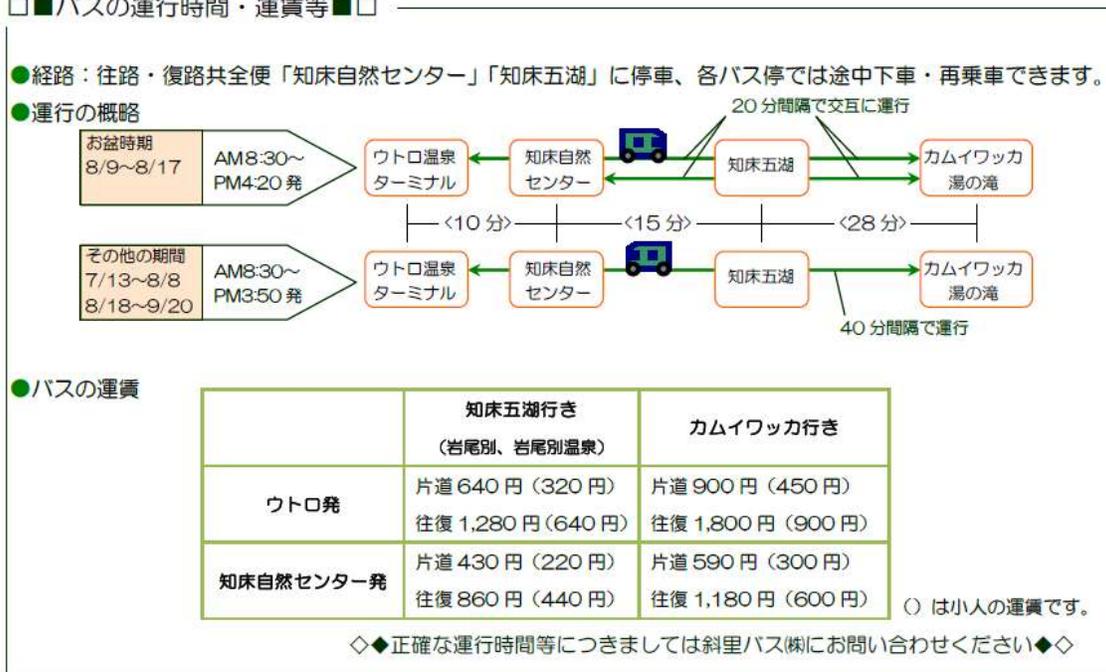


カムイワッカ地区における課題と対策

1. 利用状況

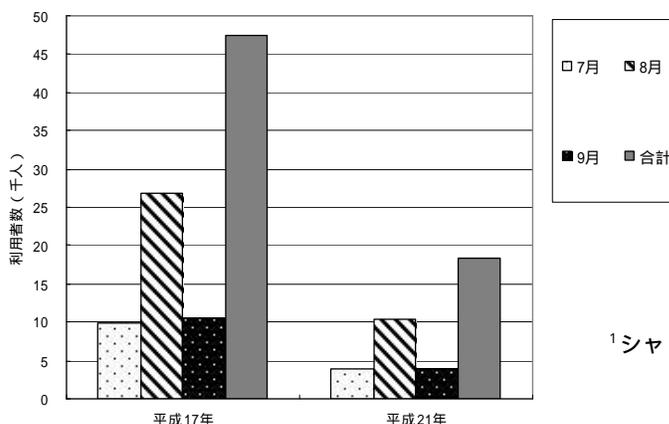
- ・カムイワッカ地区へのアクセス路である道道知床公園線においては、知床五湖からカムイワッカ方面の区間について、7～9月にかけて夏期70日間の自動車利用適正化対策（マイカー規制）を実施し、シャトルバスのみでの運行となっている。（平成21年実施期間：7/13～9/20）
- ・その他期間は道道知床公園線の落石防止工事実施のため、平成17年から車両のみならず、歩行利用なども含め通行禁止となっている。「秘境知床」を象徴する場所であり、夏期に利用が集中する実態があったが、通常期の通行規制、およびマイカー規制の導入により利用の集中は緩和された。
- ・平成21年の利用者数（監視員カウント数）は約9,300人/年となっている。（¹シャトルバス利用者数の比較 平成21年：約1.8万人/年 平成17年：4.7万人/年 62%減少）
- ・カムイワッカの滝は、落石の危険性があるため、平成18年から一の滝までの利用に制限している。

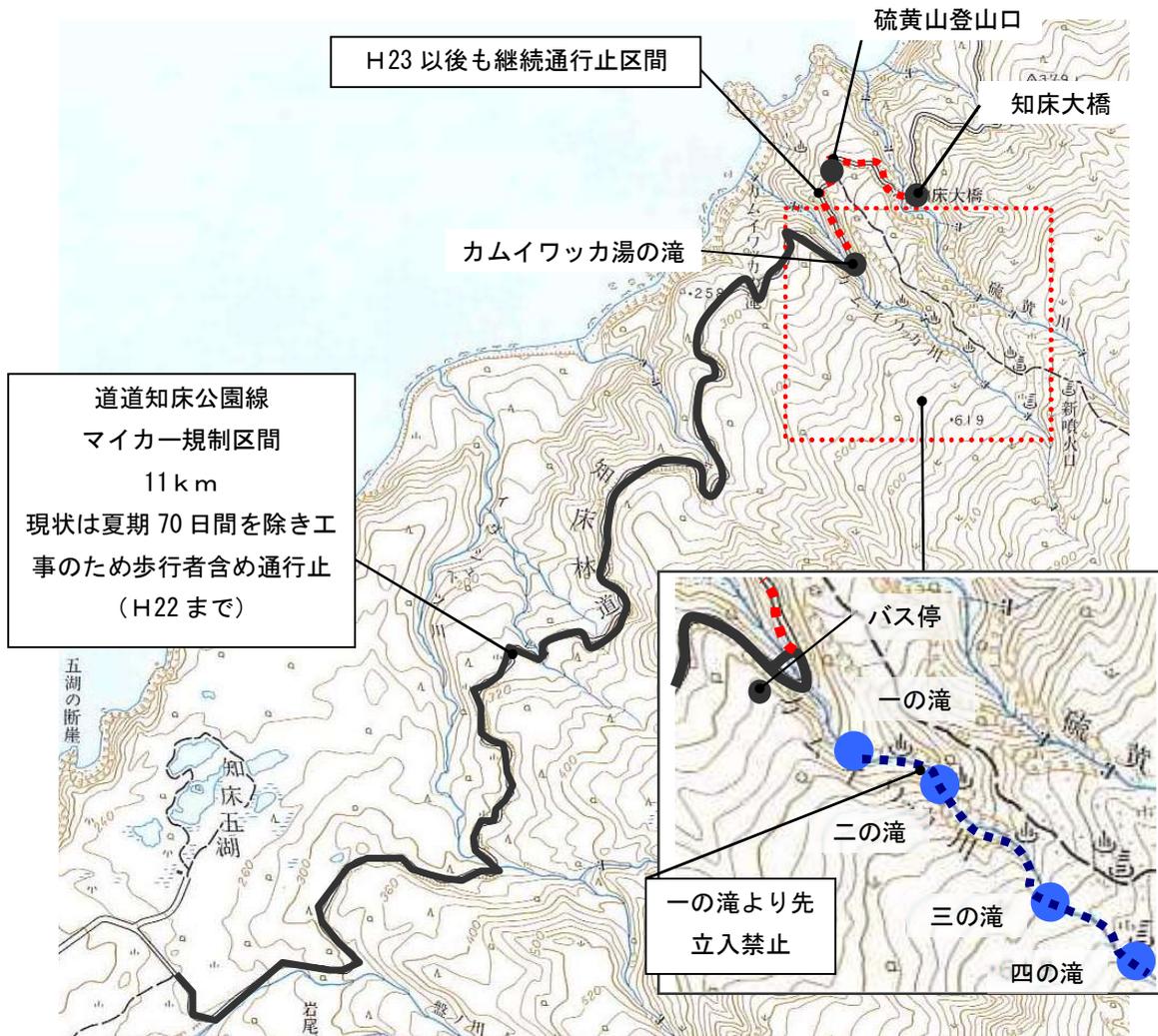
□ ■ バスの運行時間・運賃等 ■ □



図：平成22年のシャトルバスの運行概略

出典：マイカー規制チラシ

図：¹シャトルバス利用者数の変化¹シャトルバス利用者数には知床五湖など他地域の利用を含む



図：カムイワッカ地区概況図



写真：カムイワッカ湯の滝利用状況（左：平成 18 年 8 月 15 日、右：平成 21 年 8 月 15 日）

2. 課題

望ましい利用のあり方の検討

- ・ 平成23年から道道が 供用再開するため、自動車利用適正化対策（マイカー規制）のあり方の再検討が必要である。（カムイワッカ～知床大橋は継続して通行止）

安全な利用の確立

- ・ アクセスの面からヒグマ出没時の迅速な対応が難しい。（平成20年度は年間33件のヒグマの目撃が報告されている）
- ・ カムイワッカ湯の沢では落石等の危険性がある。

3. 対策

カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会において検討中

カムイワッカ湯の沢利用対策連絡協議会において検討中

課題 望ましい利用のあり方の検討

対策：マイカー規制の継続、見直し

道道については、平成22年に工事が終了し、平成23年から通行が再開される。工事以前の平成16年時の規制内容（夏期23日間）が参考となるが、湯の滝以奥の通行止等、当時と状況が変化していることから下記事項などに配慮しながら検討を行う。

- ・ 道道の利用方法（車両駐車スペース、転回スペースの減少）
- ・ 適正な利用のあり方
- ・ 平成23年度から予定される知床五湖における利用調整地区の導入
- ・ 旅行形態の変化（個人旅行の割合の増加、カーナビゲーションシステムの普及等）
- ・ 湯の滝の滞在時間の変化（平成18年以後、一の滝までに限定）

課題 安全な利用の確立

対策 1：安全管理のための体制検討

- ・ 警備員・監視員・巡視員の再配置、人員の検討
- ・ 湯の滝の利用のあり方の検討（湯の沢の入り込み規制など）
- ・ 野生生物に対する軋轢への対応検討
- ・ 地形、地質を踏まえた検討

対策 2：情報提供の継続

- ・ 知床世界遺産センターをはじめとする普及啓発拠点での普及啓発や、チラシの配布による情報提供を引き続き行う。

4. 参考資料（平成17年度策定 知床半島中央部地区利用適正化基本計画）

	エリア名	現状のタイプ	理想のタイプ	基本的方向性
13	カムイワッカ	B -	B -	□ - 1
14	車道沿線（五湖以奥）	C -	C -	□ - 1

知床への到達感を自動車で手軽に求めることができること、及び「秘境の秘湯」のキャッチコピーにより、シーズン中には利用が集中し、混雑や渋滞等が生じている。「利用ルール」づくりとその普及・啓発及び事前に自然や安全・危険等に関する情報を提供するシステムの確立と管理・巡視体制の充実を図る。

ルシャ地区への立入監視ゲート機能、カムイワッカ地区利用者への指導、硫黄山登山者への普及・啓発等の機能を果たす「フィールドハウス機能」及びその運営体制の検討を行う。

利用者の安全対策、立ち売り対策、トイレ対策等管理・巡視体制の充実を図る。

湯の滝までのルート状況（険しさ、滑りやすさ等）や周辺の落石の危険性、救護に要する時間や強酸性による皮膚の炎症等について情報提供の充実を図る。

望ましい交通システムの検討

利用の集中やそれに伴う混雑が見られ、往時の秘境感を喪失しているうえ、利用上の快適性も損なわれている。このため、カムイワッカ地区での「自動車利用適正化対策」の継続・強化（期間延長・運行回数等の調整）及びホロベツ以奥における望ましい交通システムの検討を行うことにより、利用の集中を緩和させ、一般的な利用者が適正な状況で知床への到達感・秘境感を味わうことができる場所とする。

秘境感を減退させるような工作物の新築は避け、既存工作物についても改良の際には、景観への配慮の検討を行う。